

平成29年度第4回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成29年10月3日（火）午後2時から3時45分まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 眞理子 ・田中 智美 ・上村 卓三 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美
- ・福味 眞樹紅 ・吉川 博文 ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二 ・山下 博史

■出席事務局職員

- ・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
- ・教育委員会教育部生涯学習課課長補佐：川畑 由香里

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1. 開会

- (1) 新任委員の紹介
山下 博史委員の紹介

2. 委員長あいさつ

- ・本日午前中は山城未来っ子まなびサポーター研修会に参加した。カンバヤシ紙ヒコーキの方に講演を聞き、紙ヒコーキを実際に作る楽しい研修であった。

3. 教育長あいさつ

- ・10月に入り学校行事、町民体育祭などイベントシーズンであり、この後子

ども祭りやふれあいの集いなどがある。子ども祭りは社会教育委員の皆様も深く関わっていただいている。よろしくお願ひしたい。

- ・教育委員では、予算編成時期を迎え、学校施設や社会教育施設を訪問して現状を確認し、理解を深め来年度予算への反映や、新しい制度で言えば町長との総合教育会議では様々な意見の交換をするということをやってきた。
- ・昨年年末に教育委員制度が改正になった。本町教育委員も3名が新しくなった。本町の教育行政を理解していただくため今年度も教育施設の訪問を計画している。社会教育施設の訪問も計画している。その際に従来検討事項となっていた、教育委員との意見交換会ができないかと考えている。どういうテーマで意見交換を行うかについて社会教育委員の皆様の意見をお聞きしながら進めたい。
- ・学校訪問では、今年度国や府でも課題となっている「教職員の負担軽減について」をテーマに実施している。
- ・本町においても227名の常勤職員のうち長期休職者を除く204名の勤務実態について調査を行った。1か月の超過勤務の時間数の平均は90.9時間。100時間を超える超過勤務者は小学校で30%、中学校で50%を超える結果。中学校で部活動の顧問を持っている者の勤務はそれ以外の者の2倍の超過勤務時間となった。本町だけでの問題ではなく、全国的な問題である。
- ・教職員の健康管理の面からも問題がある。別の面からは、教職員の1日の読書時間が15分程度。教育活動を行うのに必要なところに時間が取れていない実態がある。この解決に向け、府の教育委員会でも取り組んでいる。
- ・中央教育審議会の「学校における働き方改革特別部会」が設けられている。3つの緊急提言として、①校長と教育委員会は学校で勤務時間を意識した働き方を進める。②全ての教育関係者が学校教職員の業務改善の取り組みを強く推進していく。③国として持続可能な勤務環境整備のための支援を充実させる。が出された。
- ・京都府からも部活動における休養日の設定という文書が発出された。土日を含む2日以上休養日設定せよとのことである。本町でも対策を協議するところ。

4. 報告

(1) 近畿地区社会教育研究会会（京都大会）について

- 参加いただいた委員から意見を募る

【発言趣旨】

福味委員

- 京都大会で記念講演会も披講ということで、京都らしいものであった。
- 分科会は、男の井戸端会議「男談」を聞いた。男性のみの男性の居場所作りの話題。参加者が実施者であり、協力者である。分科会は男性の参加率が高く熱心に参加していた。

- 女性は定年までに地域でもコミュニティができているが、男性はなかなかできにくいということで、本町でも必要かと感じた。

高鍋委員

- 学校・家庭・地域の協働という分科会に参加した。兵庫県の町で、学校サポーターの組織がしっかりと出来上がっていて、授業内と放課後のサポートは区別されていた。放課後は1時間500円の有償サポート。その地域の組織は元教育委員会の職員が立ち上げており、教育委員会との連携がうまくいっている例。他の地域からの質問も、教育委員会との連携の課題が出されていた。
- ボランティアの確保は、地域であて職や自治会等で始めたが、うまく広がっていった。高校生も含めボランティアとなっている。

白畑委員

- 記念講演会は京都らしい講演会であった。平安時代から続く歴史や文化の内容であり興味深く聞くことができた。

尾崎委員

- 披講の披露では鳥羽高等学校の活動がしっかりとされていて素晴らしかった。
- 分科会は高鍋委員と同じ分科会。広い地域での活動だが、うまく活動されていると感じた。

谷委員

- 堀内委員とともに分科会に参加した。1年に1回地域で大きなイベントを実施しており、地域づくりについての話であった。社会教育委員活動との結びつけが難しいと感じた。

吉川副委員長

- 記念講演会では、日本の和歌は実際にその景色を見たり、体験をしていなくても、想像の世界を決まった言葉で表していることに面白みを感じた
- 人権教育の分科会に参加した。テーマにある「心の変容をはかるため」という言葉に興味をもった。また、昨年12月に部落差別解消推進法が成立したので、内容に興味を抱いた。
- 滋賀県東近江市の人権まちづくり協議会の活動の紹介。全体600人の組織。精華町の人権啓発推進委員会を何倍にもした組織の中の人権教育の活動の話だった。
- 人権のテーマについては近畿地区大会などの大きな大会で、で何を中心に持ってくるか協議される場所である。社会教育委員として人権教育をどう持っていくかという話題がもっとあれば良かった。人権同和教育に昔から関わっている人にとっては身近で意見しやすい内容だが、社会教育委員の活動として、難しいところがあった。

田中委員長

- 人権、同和問題についてはとても深く難しい問題が潜んでおり、困難さが多いため社会教育委員として、取り組みしづらい部分もあるが、学んでいかなければならないところだ。

山下委員

- 京都府が発行している「社会教育を推進するために」という冊子では見開きのところで、何を指すかは「生涯学習の振興」とあり社会教育の基盤としては「人権教育の推進」が挙げられている。人権教育を基盤として学校と社会と家庭とが三つ巴になって生涯学習を行う。としており、京都府では、人権教育をいかに社会教育の場においても基盤にしていくかというのを目標として持っていることがわかる。

吉川副委員長

- 福島の子ども（原発事故による）のことで、差別発言やいじめなどがあつたり、人権のテーマについては、近畿大会などの大きな大会での取扱いは切り口として難しい問題もある。

田中委員長

- 様々な問題があるが、心に留めながら活動に従事することが大切である。

5. 議事

(1) 第15回精華町子ども祭りについて

【説明事項】

- 実行委員として活動いただいているため、当日参加いただける方は参加をお願いします。

【発言趣旨】

清水委員

- 体験コーナーで「お菓子作り」で人数が集まらなかったと聞いている。周知方法や集約方法に問題がなかったか。
- あすなろ会では調理室は2足制を引いているが徹底できていない。施設の管理面で徹底してほしい。

福味委員

- 子ども祭りがどうだということよりも、子ども祭りが始まった15年前から比べて、子ども祭りでないと体験ができないということが減ったということはある。さまざまな体験はインターネットなどで調べることができることは増えたと感じる。子ども祭りの在り方について問い直す必要については感じることもある。

事務局

- 今いただいたご意見は真摯に受け止めるところ。議会においても子ども祭り

は見直し事業として挙げられたところ。費用対効果や目的達成などについてご指摘をいただいている。第4回の実行委員会でもあり方について検討していきたいと考えている。

- むくのきセンターの2足制については指定管理者と協議してゆく。

田中委員長

- 10月29日に開催される「精華町障害児者ふれあいの集い」について、社会教育委員に対して4名の動員依頼があった。協力者について募る。
- 高鍋委員、谷委員、福味委員、尾崎委員の4名で対応願う。

(2) その他

事務局

- 教育委員との意見交換会について、テーマを持ってはどうか。お互いの活動報告を行うことで地域と学校と家庭の協働について話してはどうか。

吉川副委員長

- 教育委員の方には社会教育委員の活動はあまり知られていないと思う。今提案いただいた内容の他に共通では、家庭教育と青少年の健全育成というところ。できるだけ具体的な話題で意見交換するのが良いと考える。

事務局

- 家庭教育と青少年の健全育成というテーマで教育委員に提示する。
- 日程は定例会と別途開催になるが、教育委員と調整のうえご提示する。

(2) 次回委員会議

平成29年12月18日(月)午後3時～

4 閉会